

令和7年度 中伊豆リハビリテーションセンターさわらび地域連携推進会議議事録

◎日 時 令和7年10月28日（火）15：00～15：30

◎場 所 農協共済中伊豆リハビリテーションセンターさわらび

◎出席者 第三者委員：梅原賢治様

利用者代表：坂下哲也様、前田真様、他1名

利用者ご家族：前田忠雄様、前田君枝様、他1名

行政：原泉様、小播佳子様（伊豆市）、渡森隼斗様（伊東市）

さわらび：五十嵐（施設長）、塩谷、藤原、那須

◎司 会 塩谷

◎記 録 藤原

◎議 事

1. 開会あいさつ（五十嵐）

2. 自己紹介

3. 議事

【事業の運営状況に関するご報告】（塩谷）

- ・昨年度実施した利用者満足度調査の結果を踏まえ、令和7年度は「利用者参加型の個別支援会議の充実化」「障害特性や達成目標に合わせた小グループ訓練の提供」「大規模災害時にも必要な事業を継続するためのB C Pの見直し」「地域活動の場への参加、活動の機会を広げるための情報収集の強化」「経営基盤の強化と風通しの良い職場づくりの推進」を重点目標と定め、事業を運営している。
事業収支を含む経営状況については、当センターホームページに掲載しているためご確認いただけます。

【身体拘束適正化に関するご報告】（塩谷）

- ・令和7年10月現在、身体拘束実施件数は1件。ご家族の要望により利用期間中の掃き出し窓の2重ロックを施行。
身体拘束0に向け、定期的にアセスメントを実施することで必要最小限の対応となるよう心掛けています。

【事故・ヒヤリハットに関するご報告】（那須）

- ・令和7年度上半期における事故の件数は表に記載の通り。利用開始間もない利用者様が環境に慣れるまでの間は事故件数が増える傾向にあり、また障害により病識が低い方が同じ事故を繰り返す傾向も認めている。分類の中の「その他」に関しては他利用者との接触や、打撲、食事提供内容のミス、配膳ミス（汁物をこぼしてしまった）マッサージ器の使用による水泡形成などである。
事故に関しては即日カンファレンスを実施し、原因究明と再発防止策を検討している。
- ・ヒヤリハット報告については、事故を未然に防ぐためアンテナを高くし支援にあたっている。今後も事故につながる可能性のある事象を発見した際には、事業所内で情報を共有し、事故につながらないよう都度対策を検討している。

【地域との連携、交流に関する実施状況のご報告】（塩谷）

- ・さわらびでは地域生活再開に向けたプロセスの一環として、利用者様と共に地域イベントに参加す

る、地域との繋がりを持つ機会を創ることに積極的に取り組んでいる。

- ・今年度は5月にユニクロ伊東店様による出張販売を主催。7月にはMORE企画様より障害者ダイビング体験会参加のお声掛けをいただき、入所利用者様1名と昨年度に退所された利用者様1名が参加。

また、今年度よりさわらびスマイルワークスプロジェクトとして、エコキャップの回収、洗浄、納品の作業を利用者様主体で行うことを開始。社会貢献活動として今後も継続的に実施していく予定である。

- ・就労支援の一環で地域の企業様にご協力いただき、就労実習も行っている。これは地域との繋がりを持つだけでなく、利用者様の社会復帰のための訓練プログラムとしてもとても良い機会となっている。
- ・伊豆総合高校生徒会主催の修善寺大掃除への参加はレギュラー化しており、地域の皆様とボランティア活動を行うことで、利用者様の生活の活力にもなっている。この活動に関しては毎月希望者を募り、職員1名と利用者様3名ほどで参加している。
- ・今後も利用者様とともに参加可能なイベント等があれば積極的に参加していきたいと考えている。

4. 地域活動等に係る意見交換

【さわらび利用者様】

- ・スポーツ関係など、体を動かす地域イベントに参加をしたい。
- ・伊豆なので、サーフィンなどの海の活動があったらやってみたい。

【ご家族様、関係者様】

- ・施設の中を見られる良い機会だった。
- ・同じ障害を持っている方との交流を望む地域の障害当事者がおり、交流の機会の場があると良い。
- ・地域との関係について、さわらびを知りたいし、知ってもらいたい。今回のように来てもらうだけでなく、外へ出る機会があると良い。
- ・スポーツイベントは体験だけでなく、『見る』『支える』という視点でも関わることができる。実際に体験するだけでなく、イベントの応援に出かけることも良いと思う。
- ・福祉祭りのようなイベントであれば、環境面でも配慮されているため参加しやすいのではないか。

5. 連絡事項、その他（那須）

- ・アンケート協力に関するお願ひ。

地域生活再開を目指す利用者様にとってご家族（支援者）の協力は必須である。

地域生活再開、在宅復帰に向けてご家族（支援者）の抱える不安材料をあらかじめ知ることで、より具体的な支援計画策定を目指したいと考える。

以上